





教育長 桜井隆一

## 自分で選ぶ

物ごとを判断したら、自分の行動を選択する場合に従来なら伝統やしきたりにまたはあくまで自分の内心の声に基準を求めたものですが、現代社会においてはもっぱら他人の目に注意を払ったり、他人への同調を心がけるような傾向があらわれてきました。

これを学者は他人志向型社会といっています。こうした傾向になると、人びとは自分が自分の心にたづねて行動するよりも、もっぱら世の中の動きや、流行、または仲間たちはこう考えるであろうとの思惑を敏感にとらえて、それに同調したりして、結局他人の承認や人気などを気にしすぎて、自分をカメレオンのように、そのときその場で変えていくことになります。

もちろん私たちも、個を越えて、社会すなわち集団に奉仕することも必要ではあるでしょうが、自主的、主体的な判断や行動を失なって、ひたすら集団の中に埋没してしまったのでは、個の実現も、創造もできなくなってしまいます。他人への思いやりということもたいせつにされなければなりませんが、同時に個人の可能性や才能を伸すことも強調されなくてはならないでしょう。

このことは、壮大な管弦楽が個々の楽器それぞれ個の音色を存分にだしながら、また全体として美しい調和が保たれることが必要であるように、個人と全体のつながりが、個性の限りない發揮の上に実現して、一人一人の個性を生かすことが、周囲の人びとに喜びや幸福をもたらすようになることの必要さをものがっています。

また、これを一つの家庭に例をとつても、父親を男性とし、夫とし父として、母親は女性とし、妻と

して、また母親としてその機能を存分に發揮しながら恐妻も、女性上位もなく、互いに陰陽の支え合いか、

たくみになされたなら、楽しい我が家がかたち作られるでしょう。

結局、個に徹し、個を越えることで、楽しい社会を築くためにも、まづ自分自身を高め、それぞれの特性を発揮することを心掛けねばならないでしょう。

これからの大衆社会の状態は、このむと、このままであります。

私たちの行動は自らの責任のもとで自ら選ぶといった態度をとることが、いよいよたいせつになってくるでしょう。

道は、自分が選ぶようにしたいものです。

私たちも、苦しくとも、むづかしくとも自分の行く

## 特別寄稿

八郷町観光協会は、時代の波に乗って昨年結成されました。しかもそこには盛

季節の果物を木の下で眺め

ます。

この四月から小学校へ入

る学年で、農業観光をはじめと

する観光開発に大きく寄与

されています。

この四月から小学校へ入

る学年で、農業観光をはじめと